乳がんから転移…119個の脳腫瘍を狙い撃ち／東京女子医科大学病院脳神経外科・林基弘教授

3/4(月) 8:00 配信 16

日刊スポーツ

頭を切らずに治すガンマナイフ治療＜2＞

「頭を切らずに治す　ガンマナイフ治療」

前回は「転移性脳腫瘍」が先に見つかり、その後で原発の「肺がん」が見つかった患者さんのケースを紹介しました。そのA男さん（60代）は、定位放射線治療のガンマナイフで7つの腫瘍すべてに照射して治療し、生命は助かりました。

A男さんのように原発がんより先に、転移したがんが見つかることもあります。脳への転移の多いがんは肺がん、乳がん、消化器系がんなどです。今回は乳がんが脳に転移した会社員のB子さん（50代）のケースを紹介します。

B子さんは「軽度の頭痛」を訴えて私どもを受診されました。話を聴くと、2年前に乳がんで手術をされていました。転移性脳腫瘍を疑い、すぐにMRI（磁気共鳴画像法）検査を行うと、転移性脳腫瘍が10個程度見つかったのです。そこで、B子さんと治療について話し合いました。標準治療は放射線による「全脳照射」ですが、それは少し前の話で、今はいろいろ治療選択ができます。また、全脳照射をすると、2年後くらいに認知機能障害が約半分の人に起こります。「1人息子が大学に進学したばかりなのです。学費も稼がないといけない。今、最も大事にしたいのは自分の意思で動ける自由です。だから認知機能温存を最優先に治療をしたいのです」－これがB子さんの考えでした。

B子さんの納得を得て、がんを狙い撃ちするガンマナイフでの治療を行いました。途中で転移性脳腫瘍が増加し、最終的に治療をした転移性脳腫瘍は全部で119個に。合計8回のガンマナイフでそれをすべて狙い撃ちし、治しました。しかもすべて日帰りで行いました。がんが脳に転移したからといってあきらめることはありません。治療の選択肢は増えています。だからこそ、B子さんのように最善の治療を選択してください。（取材＝医学ジャーナリスト・松井宏夫）